

漆萌芽の植替えに係る活着の状況について

1 はじめに

漆の木は漆を掻いた後、伐採すると、根株から伸びた根から萌芽が発生します。これら萌芽は生育が旺盛であり、適切に保育管理することで、漆林を有利に更新できます。

萌芽は大量に発生するため、萌芽の数を調整することが必要となりますが、あらかじめ不用な萌芽を掘り取り、別の場所に植え替えることで、漆木を育成することが可能です。

当普及区では、植え替えによる萌芽の活着や生育状況などを明らかにするため、今回試験を行いました。

2 萌芽の掘り取り

去る5月2日に二戸市浄法寺町にある「ふるさと文化財の森」において、二戸市、浄法寺漆生産組合及び森林組合の関係者約20名の協力のもと、漆萌芽の掘り取りを行いました。

掘り取る萌芽の選定は、日本うるし掻き技術保存会の工藤竹夫会長の指導により行い、参加者はスコップなどを使って掘り取り作業を実施しました。

掘り取った萌芽は150本で、その日のうちに周辺に設置した試験地などに植栽しました。



① 萌芽の掘取状況



② 萌芽の根茎

3 掘取萌芽の活着状況

掘り取った萌芽の一部について、隣接する畑に設置した試験地Aに植え替えし、その1ヵ月

後の6月9日に萌芽の活着状況を調査しました。この結果、植え替え後に新芽が発生した割合は104本中84本で活着率は81%と良好でした。

また、掘り取った萌芽のうち、根茎からの細根の発生が難しいと講師が判断した萌芽15本(写真②)については、試験地Bに植栽した結果、そのうち11本から新芽が発生(活着率74%)しました。

これまで根の形状や細根の状況などにより、活着状況に大きな違いが生じるといわれておりましたが、細根が発生しにくい太い根茎の場合においても、萌芽の活着は良好であり、想定した以上の結果となりました。

ただし、試験地Aで活着した84本のうち28本については、原因不明の葉の変色、変形が見られたほか、一部はマイマイガの被害を受けていました。また、試験地Aで新芽が発生しなかった20本について、根元径や樹高との関係を調査しましたが、因果関係は認められませんでしたので、今後も経過の観察をしていきます。



③ 新芽が発生した萌芽



④ マイマイガの発生

4 今後の取組

最終的な活着状況の判断は秋以降に実施することにしてはいますが、今回の植替試験での活着が良好であったことから、当普及区では、漆萌芽を山取り苗として活用することを視野に入れ、今後試験地を増やし、生育状況の調査を拡充することとしています。